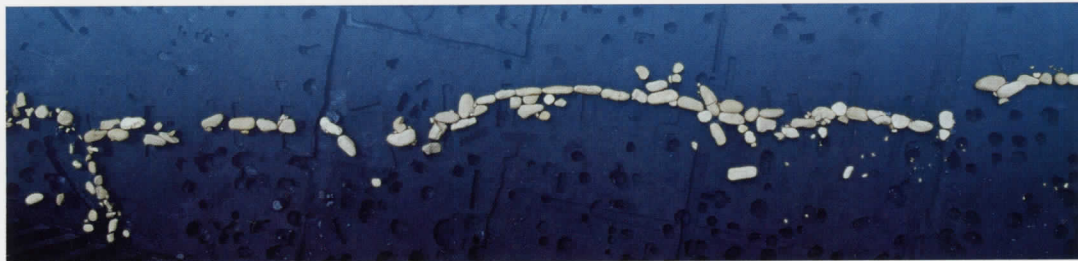


大津歴史博 だより

発見された 日本列島 2016

新発見考古速報

平成28年 8月6日(土) - 9月11日(日)



縄文土器 六反田南遺跡出土
公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団蔵



ミニチュア炊飯具形土器
たいこづか
太鼓塚3号墳出土 大津市教育委員会蔵

遺跡とは、過去の人々の活動の跡です。これを掘り出すことで、様々な時代の人たちが何を作り、どのような生活をしていたのかを知ることができます。現在、日本全国では年間約 8,000 件もの発掘調査が行われ、多くの資料が日々発見されています。本展は、近年特に注目された遺跡を中心に、日本全国の最新の発掘調査成果を紹介する文化庁主催の全国巡回展です。平成7年度から毎年開催され、今年で 22 回目となりますが、滋賀県での開催は 20 年ぶりのことです。この機会に、ぜひ全国から集まった最新の考古資料をご覧ください。

また、本館独自の展示として、大津市内の出土資料を中心に、古墳時代の渡来文化を紹介する地域展示をあわせて開催します。

全国巡回展（中核展示）

新発見考古速報

近年の発掘調査成果の速報展示として、旧石器から近代まで全国 36 遺跡の出土品を展示します。

特集 1 復興のための文化力 —東日本大震災の復興と埋蔵文化財の保護—

東日本大震災からの復興事業が進む中、これに伴う埋蔵文化財調査の件数も増加しています。一日も早い復興のため、様々な取り組みによって迅速な発掘調査がおこなわれている岩手・宮城・福島 3 県から 7 遺跡を紹介します。

特集 2 復興の歴史を掘る

発掘調査では、しばしば過去の災害の痕跡が確認されます。この痕跡から当時の人々がどのように復興していったのかを探ることで、現在の防災にも役立てることができます。当時の復興への取り組みがわかる 7 遺跡を紹介します。

地域展示 「渡来した人々の足跡—大津の古墳群と集落跡—」

古代の日本列島には、中国大陸や朝鮮半島から、その土地の技術や文化を持った人々が多数渡来しました。大津市の湖西南部、特に坂本から錦織の地域に密集する古墳群と集落跡からは、渡来人または渡来文化の影響を強く受けた人々がいたことを示す特徴ある遺物や遺構がまとめて確認されています。この渡来文化を示す出土品について、大津市内の調査成果を中心に、大和（奈良県）や河内（大阪府）の資料とともに紹介します。

近江の首長たちと渡来文化

現在の津市域で渡来系の人々の活動が活発になるよりも前の時期、5 世紀から 6 世紀前半の近江の首長墳からは、彼らが積極的に東アジア諸国と交流を持っていたことを示す副葬品が見つかっています。

5 世紀中頃に築造された新開 1 号墳（栗東市）は、大量の鉄製の甲冑や武器、馬具が副葬品として納められており、特に馬具は、日本列島に導入された初期の段階のものとして注目されています。また、6 世紀前半の築造となる鴨稻荷山古墳（高島市）は、継体天皇との関わりについても注目される古墳ですが、石棺内からは朝鮮半島からもたらされた金銅製冠や飾履（装飾用の履）、金製垂飾付耳飾などが出土しています。

古墳群の中の渡来文化—ミニチュア炊飯具とかんざし—

大津市の坂本から錦織の地域では 600 基以上の古墳が確認されています。構造としては、天井部分をドーム状に構築する横穴式石室が特徴的で、さらに副葬品として、多くの石室からミニチュア炊飯具が出土しています。ミニチュア炊飯具とは、竈、釜、甑、鍋をセットにした小型の土器のことで、実用品ではなく、古墳への副葬のために作られていました。また、銀製や金銅製の釵子や釧（腕輪）等の装飾品も出土しています。これらは、中国や朝鮮半島に類例があり、渡来系の遺物として注目されています。

集落の中の渡来文化—大壁建物—

市内で渡来系の古墳群が築かれた同じ地域、特に穴太から錦織にかけての範囲では、大壁建物が集中して分布しています。大壁建物とは、柱ではなく、壁で屋根を受けるといった特殊な構造の建物です。溝を方形に巡らし、その中に通常の柱より細い間材を立て、これを土壁で塗り込めることで柱が外から見えないような構造をしています。住居なのか、他の施設なのか、その使われ方はまだ明確ではありませんが、渡来系の要素の一つとして考えられている建物跡です。

インフォメーション

主催：文化庁、大津市、大津市教育委員会、大津市歴史博物館、京都新聞、全国新聞社事業協議会

協力：全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会・全国埋蔵文化財法人連絡協議会・公益財団法人元興寺文化財研究所・共同通信社

後援：全国史跡整備市町村協議会・NHK 大津放送局・BBC びわ湖放送・エフエム滋賀・エフエム京都

観覧料：一般 800 円（640 円） 高大生 400 円（320 円） 小中生 200 円（160 円）

※（ ）内は、前売り、15 名様以上の団体割引、または大津市内在住の 65 歳以上の方、大津市内在住の障害者の方、大津市内在住の介護保険の要介護者・要支援者の方の割引料金（証明するものをご提示ください。）

休館日：月曜日（8 月 12 日は開館）

【全国巡回展】 主な展示品



1. 石器の材料 黒曜石の原石 縄文時代
史跡 星ヶ塔黒曜石原産地遺跡 下諏訪町教育委員会蔵



2. 豊かな装飾の縄文土器 縄文時代中期
六反田南遺跡 公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団蔵



3. 国内最大級の大型岩偶 縄文時代前期末
館崎遺跡 北海道埋蔵文化財センター蔵



4. 甕棺に納めた青銅の剣 弥生時代中期
岸田遺跡 福岡市教育委員会蔵



5. 墳頂に並ぶ家形埴輪 古墳時代前期末
史跡 甲立古墳 安芸高田市教育委員会蔵



6. 平城宮で使われた鬼瓦 奈良時代
史跡 中山瓦窯跡 奈良文化財研究所蔵



7. 約4~5万枚の埋蔵金 南北朝時代
中津居館跡 岩国市教育委員会蔵



8. 古代のアイロン 火熨斗 平安時代
神屋遺跡 公益財団法人茨城県教育財団蔵

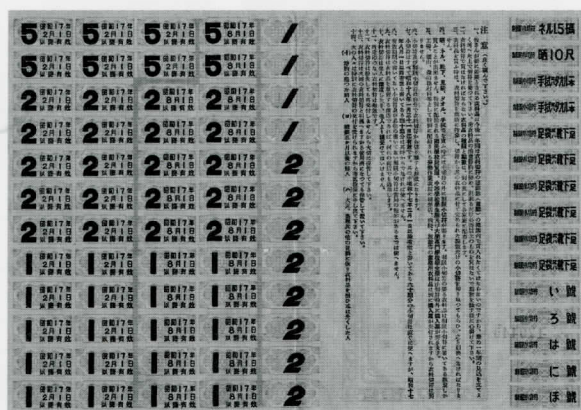


9. 秀吉の城を飾った金箔瓦 安土桃山時代
伏見城跡 京都市蔵

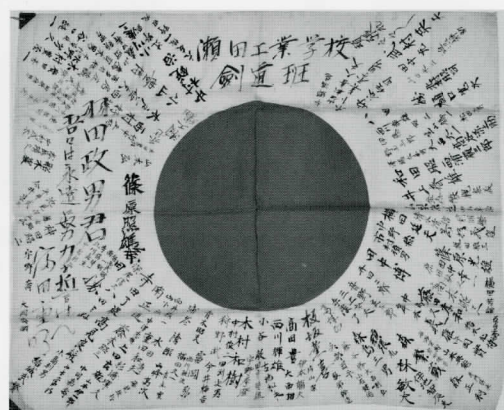
戦前から戦後の市民生活

会期：7月26日（火）～9月11日（日）
【休館日：月曜日（8月12日は開館）】

昭和20年（1945）8月15日の終戦の日以降も、国民は戦前の苦しい生活からすぐに解放された訳ではなく、依然として物資の欠乏などにより厳しい生活を強いられました。本展では、大津での戦前から戦後の市民生活に焦点を当て、終戦前後の衣料切符や家庭用物資の購入券、アメリカを主力とする占領軍に対する注意喚起のビラなど、貴重な資料を当時の写真とともに紹介します。また特別にコーナーを設け、大津出身で、出撃を免れた神風特別攻撃隊員の関係資料も合わせて展示し、平和の尊さについて考えます。



戦時中の衣料切符 個人蔵



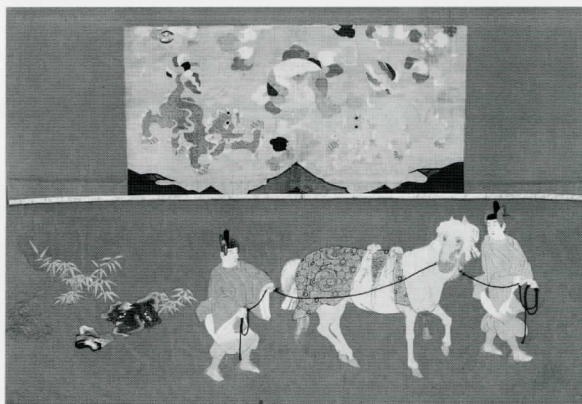
瀬田工業学校剣道班から贈られた日の丸の寄せ書き 本館蔵

大津祭を彩る装飾品

会期：9月13日（火）～10月16日（日）
【休館日：月曜日（9月19日、10月10日を除く）、9月20日、23日、10月11日】

平成28年3月2日付けで「大津祭の曳山行事」が国の重要無形民俗文化財に指定されました。大津祭が評価された点の一つとして、「京都祇園祭に比肩する懸装品を有していること」があげられています。近世の都市祭礼は、様々な趣向や装飾を充実させ、華やかさを演出し、人々の目を驚かせ、楽しませることで、大きな盛り上がりを作りました。大津の場合、近世後期、隣接する京都祇園祭と競うように豪華な染織品を用いて曳山を飾ることに一つの特色が見られ、当時の大津の経済力と文化力をしのばせる優品が残されます。この展示では、かつて使用されていた大津祭曳山に懸けられていた染織品の数々を中心に紹介します。

本展は大津祭国指定記念事業実行委員会の協力で開催します。



ゆたてやままえまく 湯立山前幕
しんめ ず ししゅう 神馬図刺繍
たま やちよう 円山応挙下絵
たま やちよう 玉屋町自治会蔵

海保青陵筆「百福図由来書」(中堀町自治会蔵)について

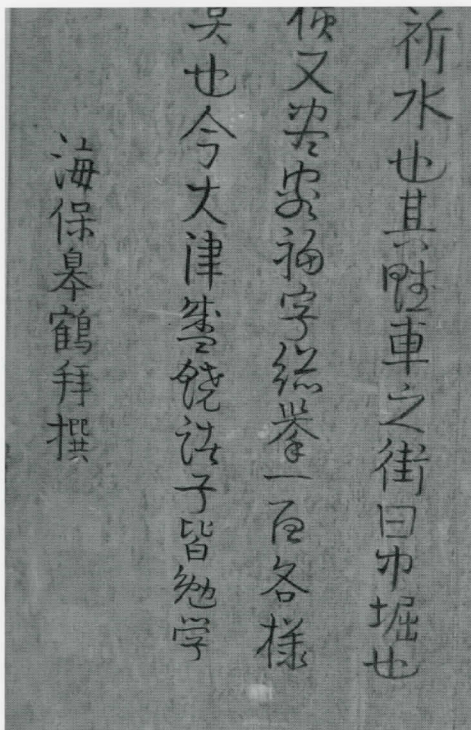
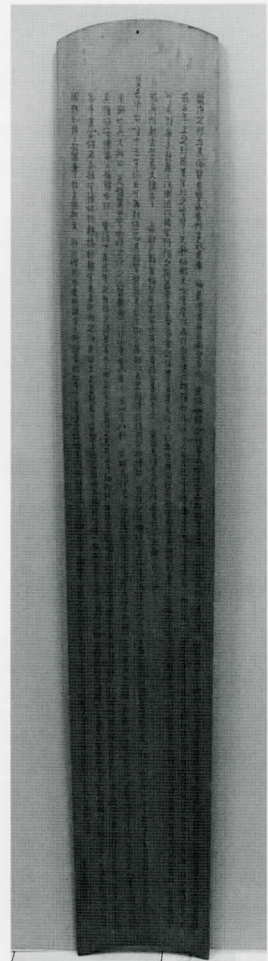
海保青陵(1755-1817)は、江戸時代後期の儒者・経世家で、全国各地を巡り経済コンサルタントのような仕事をした人物です。大津にもたびたび足を運んだようで、『稽古談』に次のような記事が見えます。「大津ハ鶴(青陵のこと)ノ懇意ノ人大ゼイアリ。面白キ所ナリ。近年ハ大キニ開キテ、大坂ノチイサイヨフナル所ニナレリ。」と評し、琵琶湖の港町として「金子ノ調達ノデキルトコロ也」と記しています。また「鶴ガ知リテカラ又大津ハ繁昌ト見ユル也、大津ノ繁昌ナルハ、諸侯ニ大津調達多フナリタルユヘ也」とも記しています。つまり諸藩にとって、年貢米を容易に換金できる大津は便利な場所で、その結果、経済活動が活発な町だったようです。

彼が大津祭を見物したのは、寛政12年(1800)秋のことです。懇意にしていた坂本町の西川家で見ており、そのおり中堀町の孔明祈水山の見送幕について、町内からの依頼で一文を草しました。その内容は、中堀町が入手したばかりの見送幕、百福文字図繻珍錦の感想が主眼となっています。見送幕は、中国明代後期から清代初期、17世紀の製作とされ、福の字を百態、様々な字体で表現したもので、箱の蓋裏に「安楽庵百福織見送 中堀町」とあり、町内の『山車修覆記』には、「寛政五癸丑年冬、金五拾四両 安楽庵百福見送り(中略)但シ大阪中嶋上田氏より求之」と見えるものです。

由来書は、長文の漢文を板に記したもので、まず祇園祭に劣らぬ大津祭の美麗を称賛し、百福錦に話が及びます。「寛政十年戊午之秋及之浪華富人上田之家、上田受之、烏丸公、及細川熊本侯之所贈(蔵)也、之先嘗而安楽上人」とあり、青陵は、寛政10年に求めたと記していますが、仕立て直しに何度も

手を入れているようなので、祭に懸けられ人々の目に触れた時期がそのころだったのでしよう。ともかく完成直後の見送幕を見ています。

伝来については、もともと安楽庵策伝(1554-1642)のものであった百福錦は、親交のあった烏丸光広(1579-1638)に移り、それが熊本細川公の所蔵になったようです。烏丸光広は歌人、能書家として著名な公卿ですが、細川幽齋から古今伝授を受け、光広の子光賢は、細川忠興の娘さんと結婚しており、細川家とは姻戚関係にあたります。百福錦が、烏丸公から熊本細川家に渡ったとしても不思議ではありません。こうしたやりとりが17世紀中ごろにあり、大名家に納まっていた貴重な錦は、18世紀も終わる頃、民間に流れたようです。大阪中之島の上田氏が入手し、そこから中堀町が購入しました。この来歴を検証する資料は残されていませんので史実かは断定できませんが、大津祭曳山を彩る装飾品の歴史の一端を想像することができます。青陵も改めて大津の豊かさを実感したようです。(和田光生)



【地域展示】 主な展示品



1. 重要文化財 馬具 しんがひ 新開1号墳
滋賀県立安土城考古博物館蔵



2. 金銅製冠 (復元品) かんむり 鴨稻荷山古墳
高島市教育委員会蔵



3. 金銅製飾履 (復元品) しよくり 鴨稻荷山古墳
高島市教育委員会蔵



4. 銀製釧・金銅製釧 くしろ 太鼓塚古墳群
大津市教育委員会蔵



5. 銀製釵子 かんざし 穴太野添古墳群
大津市教育委員会蔵
※8月16日(火)～26日(金)は大津市役所
1階市民ギャラリーにて展示。



6. ミニチュア炊飯具形土器 かひこめ 穴太飼込古墳群、福王子古墳群、大谷南古墳群
滋賀県立安土城考古博物館蔵

ご利用案内



- 交通機関
 - ・京阪電鉄石山坂本線別所駅 徒歩5分
 - ・JR 大津駅 徒歩 15分
 - ・JR 大津駅、バス 10分別所下車
- 駐車場 約70台(無料)

■常設展示観覧料

| 区分 | 個人 | 団体(15名以上) |
|---------|------|-----------|
| 一般 | 320円 | 250円 |
| 高校生・大学生 | 240円 | 190円 |
| 小学生・中学生 | 160円 | 120円 |

- ◆大津市内在住の65歳以上の方は一般料金の半額。
- ◆市内在住の障害者の方、市内在住の介護保険の要介護者の方・要支援者の方は無料(証明するものをご提示ください)。
- ◆ミニ企画展は、常設展観覧料でご覧いただけます。
- ◆企画展の観覧料については、その都度定めます。

■開館時間

午前9時～午後5時(展示室への入場は午後4時30分まで)

■休館日

月曜日(祝日・振替休日の場合は開館し、翌日が休館)
祝日の翌日(土・日曜日の場合は開館)
年末年始(12月27日～1月5日)
その他、業務の都合により休館する場合があります。

— 歴博カードのご案内 —

当館主催の展覧会を自由にご観覧いただける定期観覧券です。また、当館発行の出版物や催し物の割引、様々な情報のご案内など、多くの特典を設けております。(1年間有効)

| 料金 | 一般 | 高大学 | 小中学 |
|----|--------|--------|--------|
| | 2,000円 | 1,500円 | 1,000円 |

★詳しくは博物館までお問い合わせ下さい。



大津市歴史博物館

〒520-0037 滋賀県大津市御陵町2番2号
TEL 077-521-2100 FAX 077-521-2666
<http://www.rekihaku.otsu.shiga.jp/>

大津歴博だより No.103 平成28年7月1日